

平成20年3月中間期 会社説明資料

平成20年6月



日本ジャンボ株式会社

(J A S D A Q ・ 9 6 7 7)

平成20年3月現在

商号 日本ジャンボ株式会社

本社 静岡県熱海市泉山下27番1

代表者 代表取締役社長 村松 潔

設立 設立・昭和35年12月3日

資本金 4,271百万円

売上高 24,706百万円（平成19年9月期連結実績）

従業員 179名（平成20年3月末）

昭和35年12月	日本ジャンボ(株) (静岡県熱海市伊豆山仲道463番の4) 設立
昭和39年11月	湯河原総合現像所 (神奈川県足柄下郡湯河原町) 開設
昭和50年4月	現像所向け用品の開発・販売を目的とし、エフエル(株)神奈川県足柄下郡湯河原町) 開設
昭和53年10月	湯河原総合現像所改築
昭和57年2月	現像所向け料金計算システムの開発・販売を行うため、子会社日本システム(株) (静岡県熱海市) を設立
昭和63年9月	本社社屋 (静岡県熱海市) 新設。同時に泉事業所を併設し、日本初のマキシラボシステムを設置
平成元年12月	本社移転 (静岡県熱海市泉)。[現在地]
平成6年7月	大阪地区のカラー写真処理増大に対処するため、大阪府摂津市に新大阪現像所を設置
平成6年11月	九州に拠点を持つ(株)ミヨシの発行済株式の全てを取得し、当社の子会社となる
平成9年2月	今後の事業の拡大のために、温泉施設を経営する万葉倶楽部を設立
平成12年4月	(株)エス・ビー・エムが株式交換により、当社の完全子会社となる
平成15年10月	子会社(株)エス・ビー・エムと合併
平成16年1月	ビル管理部門を100%子会社(株)エス・ビー・エムとして分社
平成19年4月	静岡県焼津市のリゾートホテル三景苑を取得し、新設法人三景園株式会社として当社の子会社となる

当社グループは、当社及び子会社10社、その他の関係会社1社で構成され、事業はD.P.E.（写真の現像・焼付・引伸しサービス）及びフィルム、写真用品等の販売（総合写真事業）を主に行っているほか温泉施設の経営（温泉事業）等を営んでおります。

平成20年3月中間期 決算概要

Jumbo

日本ジャンボ株式会社

(JASDAQ・9677)

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、景気が緩やかに回復していると言われるものの、サブプライムローンに端を発した金融市場の不透明感やアメリカでの景気後退懸念感もあり、景気の下振れリスクが懸念されます。また、原油価格の高騰による物価上昇の影響もあり消費者の節約姿勢が一段と強まる傾向となっている中、国内消費動向は一段と不透明な状況が続いており、当社グループにとりましても依然厳しい状態が続いております。

このような中、当写真業界においても銀塩市場の縮小とフィルム写真における消費の低迷が続いており、当ラボ業界におきましては大変厳しい環境となっております。しかし、銀塩フィルム市場が縮小する反面、デジタルカメラの普及に伴い、ショット数は確実に増加しつつあります。当社といたしましても、いかにこの撮影された撮影データをデジタルプリントに結び付けるかが重要な課題となっており、これまでインターネットプリント環境やデジタルプリント自動受付端末に代表するインフラ面での整備拡充を進めてきた結果、確実にデジタルプリントの受注量は増加しております。しかしながら、カラーフィルム販売及び現像プリントの減少と、年末商戦のポストカード受注量に関しましても積極的な営業展開を行いました。他社との競合により前年を下回る形となったことから、結果として売上高が減少となりました。

また、温泉事業においては、近年の温泉市場拡大に伴い競合他社との競争がますます激しさを増してきていることから、これまで以上に顧客ニーズに合わせたサービスの提供、他社との差別化に努めていき、企業体質の強化ならびに安定した利益を確保できる強固な経営基盤の確立を目指してまいります。

この結果、売上高は前中間連結会計期間比20.8%減の113億8千万円、経常利益は前中間連結会計期間比60.7%減の11億3千7百万円、中間純利益は前中間連結会計期間比57.9%減の4億4千1百万円となりました。

損益計算書（連結）

日本ジャンボ株式会社

(単位：百万円)	19年3月中間期	20年3月中間期	前期比
売上高	14,375	11,380	79.2%
売上原価	8,656	7,309	84.0%
販売費及び一般管理費	2,765	2,618	94.7%
営業利益	2,952	1,452	49.2%
営業外収益	218	221	101.5%
営業外費用	275	536	194.6%
経常利益	2,895	1,137	39.3%
特別利益	54	36	66.5%
特別損失	706	186	26.4%
中間純利益	1,048	441	42.1%

貸借対照表（連結）

日本ジャンボ株式会社

（単位：百万円）	19年3月中間期	20年3月中間期	増減
流動資産	8,547	6,629	△ 1,917
固定資産	27,984	27,457	△ 527
繰延資産	—	—	—
資産合計	36,531	34,087	△ 2,444
流動負債	7,049	5,238	△ 1,811
固定負債	12,676	11,812	△ 864
負債合計	19,726	17,051	△ 2,675
資本金	4,271	4,271	—
資本剰余金	4,797	4,766	△ 30
利益剰余金	7,623	7,705	82
自己株式	△ 363	△ 63	300
株主資本合計	16,329	16,680	350
評価・換算差額等合計	6	△ 195	△ 202
少数株主持分	469	551	82
純資産合計	16,805	17,035	230
負債純資産合計	36,531	34,087	△ 2,444

キャッシュ・フロー計算書(連結)

日本ジャンボ株式会社

(単位：百万円)	19年3月中間期	20年3月中間期	比較増減	備考
営業活動による キャッシュ・フロー	2,644	1,554	△ 1,089	税金等調整前中間純利益987百万円、減価償却費527百万円、投資有価証券の運用損239百万円、売上債権の減少217百万円等
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 250	△ 284	△ 33	有形固定資産の取得による支出335百万円、投資有価証券の売却による収入197百万円等
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,539	△ 1,263	275	長期借入金の返済による支出979百万円、短期借入金の返済による支出450百万円等
現金及び現金同等物の 増加額	855	6	△ 849	
現金及び現金同等物の 期首残高	4,924	3,910	△ 1,013	
現金及び現金同等物の 中間期末残高	5,779	3,917	△ 1,862	

(単位：百万円)

セグメント	19年3月中間期		20年3月中間期		比較増減	
	営業収入	構成比	営業収入	構成比	増減額	増減率
総合写真事業	6,245	43.4%	5,431	47.7%	△ 814	△ 13.0%
温泉事業	5,678	39.5%	5,584	49.0%	△ 94	△ 1.7%
その他事業	2,457	17.1%	373	3.3%	△ 2,084	△ 84.8%
合計	14,382	100.0%	11,389	100.0%	△ 2,992	△ 20.8%

総合写真事業

デジタルカメラの普及に伴い、撮影データをデジタルプリントに結び付ける為、インフラ面での整備拡充を進めてきたところ、確実にデジタルプリントの受注量は増加しておりますが、フィルムカメラ市場における需用の減少が下げ止まらないこともあり、結果として減収減益となりました。

温泉事業

各施設の環境に沿ったきめ細やかで高品質なサービス及び「健康・美容・憩い」といった付加価値の提供による収益基盤の拡充に努めてまいりましたが、他社温泉施設の開業や個人消費の節約姿勢の影響により減収減益となりました。

その他事業

前中間連結会計期間には販売用不動産売却により21億円の売上高がありましたが、当中間連結会計期間には不動産売却の実績がない為、減収減益の一因となっております。

平成20年9月期 業績予想



日本ジャンボ株式会社

(J A S D A Q ・ 9 6 7 7)

（単位：百万円）	19年9月期	20年9月期予想	対前期増減率
売上高	24,706	20,430	△ 17.3%
営業利益	3,705	1,906	△ 48.5%
経常利益	3,456	1,992	△ 42.4%
当期純利益	1,356	996	△ 26.5%
EPS（円）	187.51	139.03	—
ROE	8.4%	6.0%	—

EPS＝1株当たり当期純利益

ROE＝自己資本利益率

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

経営方針

当社の企業集団は、D.P.E.及びフィルム、写真用品等の販売を主に行っている総合写真事業と温泉施設の経営等を営んでおります。

総合写真事業におきましては、「よりよい品をより安く」「取次店との共存共栄」「写真の真の姿の追求」の3つの精神を経営理念としております。会社設立時からの営業戦略として、それまでの業界通念を打破して、写真専門店の店頭のみで行っていたD.P.E.の処理サービスを業種、業態の壁を取り払い写真と全く関係のない写真取扱いチェーン店を開設して、写真業界の流通サービス業務に革命的なシステムを導入し、また、カラープリントの低価格戦略面でも業界のプライスリーダーとして積極的に対応しております。

また、温泉事業におきましては、極上の温泉だけが約束できるリラクゼーションライフをお客様に堪能していただくことを経営理念としております。

いずれの事業におきましてもお客様のニーズをすばやく的確にとらえ事業に反映させてまいります。

今期の取り組み

引き続き総合写真事業は依然として厳しい状況が続くものと推測されます。このような状況下、今後もデジタル技術と銀塩技術の利点を組み合わせた新しい商材を開発し、お客様へ提案していくことが大事だと考えており、今期に関しましても、デジタルプリント自動受付端末「フォトキャッチャー」の設置を増加させ、なお注文できる商材を増やしていけるよう取り組んでまいります。

また、この春からの新商材として「フォトブック」の発売を開始しております。現在は「フォトキャッチャー」での受付となっており、一部の端末でのみ受付可能な状態ではありますが、順次受付可能なフォトキャッチャーを増加させていく予定であり、今後はインターネットでの受付にも対応していく予定となっております。

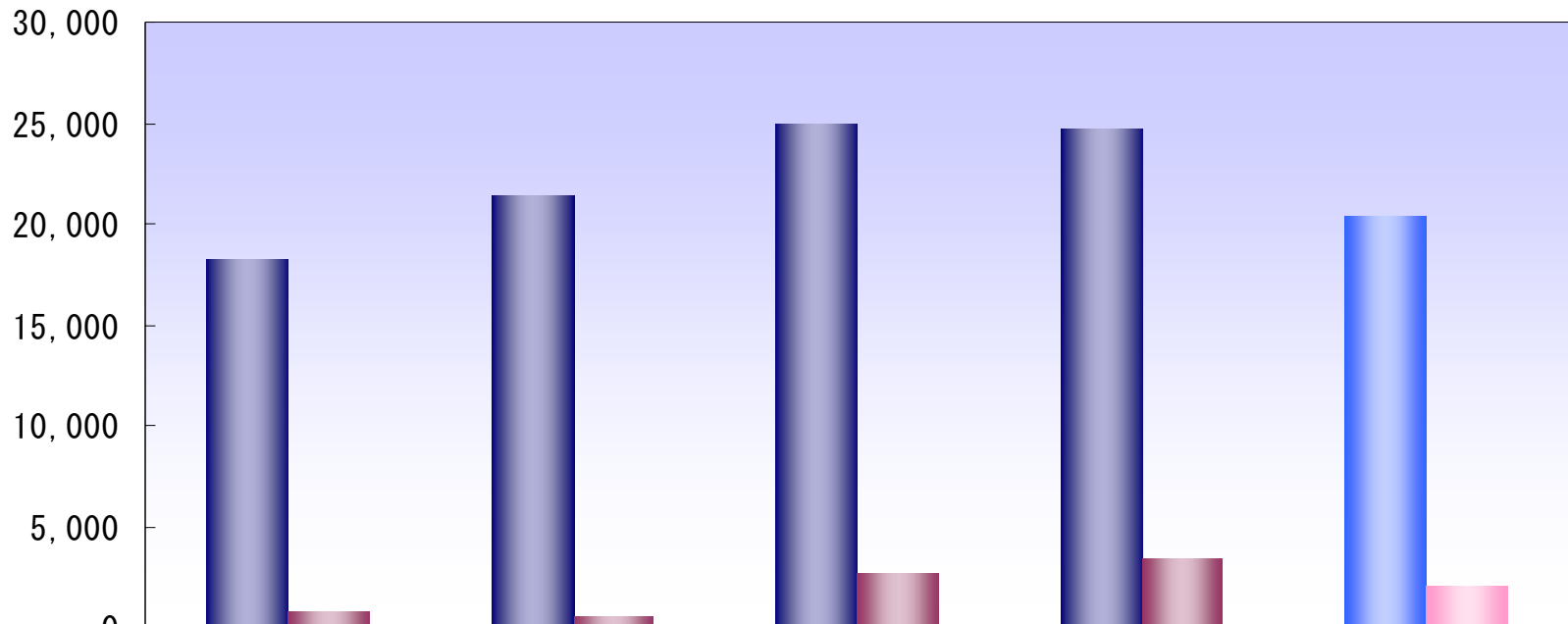
今期もデジタル対応の先行投資を続け、インフラ整備の拡充を図ると共に、一層の経営の効率化に取り組んでまいります。

温泉事業につきましては、激化する競争に勝ち抜けるよう、今後も競合他社との差別化を図り、これまで以上に高品質サービスの提供が実現できるよう取り組んでまいります。

売上高・経常利益の推移（連結）

日本ジャンボー株式会社

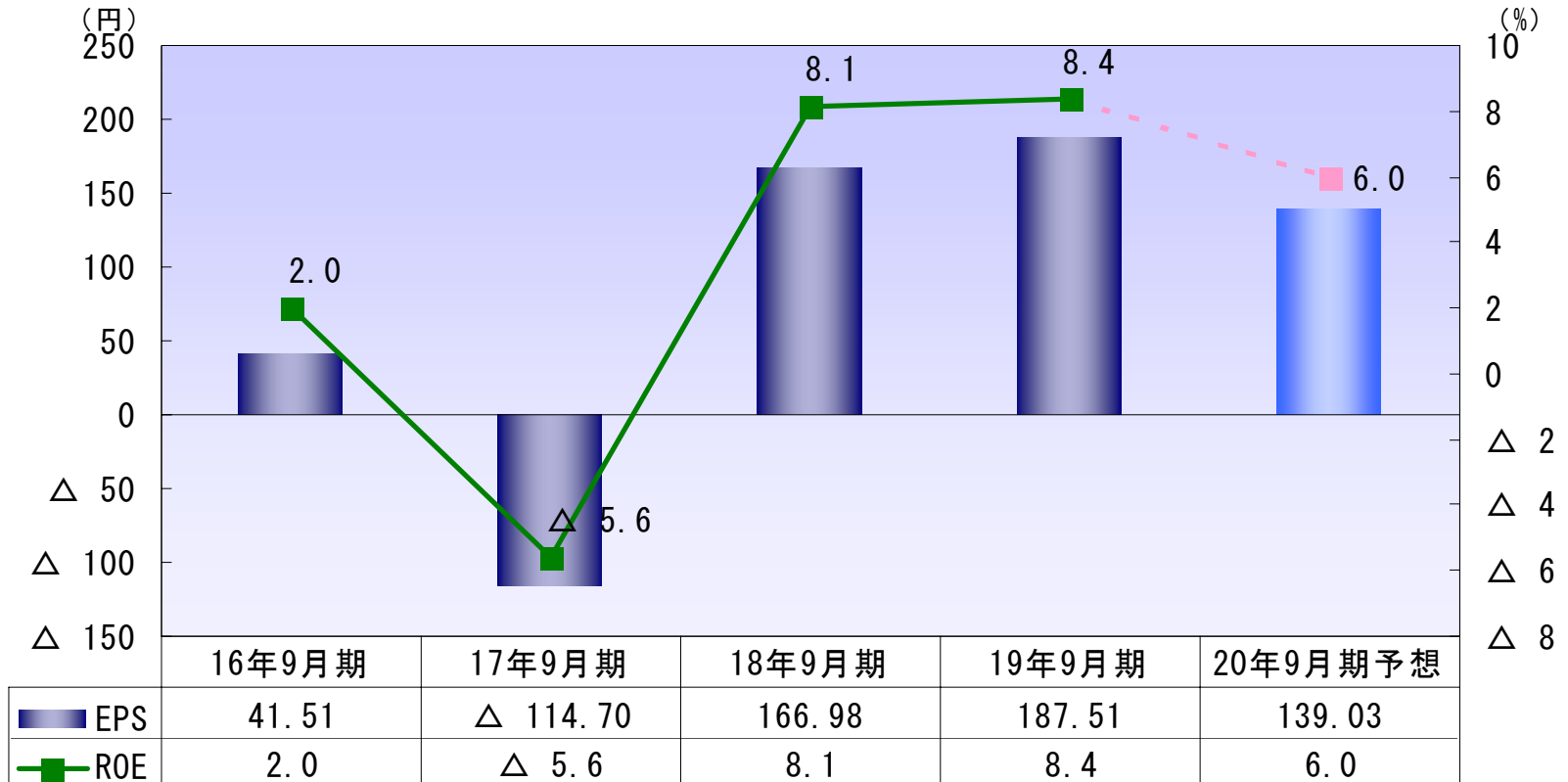
（百万円）



	16年9月期	17年9月期	18年9月期	19年9月期	20年9月期予想
■ 売上高	18,187	21,381	24,982	24,706	20,430
■ 経常利益	804	547	2,619	3,456	1,992

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

EPS・ROEの推移（連結）



EPS=1株当たり当期純利益

ROE=自己資本利益率

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。



日本ジャンボ株式会社

管理本部

TEL : 0465-60-2500

E-mail : info@mail.jumbo.co.jp